



類題繁句集

全



類題發句集 完

松榮舎藏

從修類題後句集序



加けり〜意の〜

日下武尊東征乃折〜早波比沼乃乃文少て旋乳  
之の本のしと〜娘〜ふ大とり〜て侍色も〜海を陸  
り末をほきたり〜〜甲武乃世乃終分乃本と  
いひて末と人〜は帝すせあるはこ〜り小末と人  
小波帝すせあ〜はこ〜あふ末と〜て本と後りは  
帝すせあ〜はこ〜あふ末と〜て本と後りは  
〜と中比よす〜名を〜して直に分を〜  
此を〜と〜と〜ゆ〜は〜人乃折よあれ

ふれたるをいふれ乃こふれくふれに連治し代有  
相の分際念ありて連治の或目を觀し一は人の  
強ゆるといふれ一はまじし一は教僧對定紙字書けり納りま  
くしむれれに強を強んし卒ら連治師の名目をさ  
けりてい連治をいふ人一古今集乃代治家よりし  
つる連治乃此言強くその余與ある二は一書<sup>キヨウ</sup>一強  
乃連治と名をて強を強治をいふ一は強一は強  
をいひて強一は一は強を強れり強とし4分の如く百歌  
るや強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強  
強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強  
強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強

氏宗澄貞徳なるや分連治乃巧命とく人い思いうなり  
久んかの代治師をまじりて強く強く強く強く強く強く強  
りて百強なるやの式法を代有一強治師とてあは  
かふありてさうん一世にわく強く強く強く強く強く強  
とつとひし強く強く強く強く強く強く強く強く強く強  
は及る強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強  
強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強  
の強く強く強く強く強く強く強く強く強く強く強  
ふりのありて強く強く強く強く強く強く強く強く強  
はて又強く強く強く強く強く強く強く強く強く強

酒の字を以てるるは位を擬乃加の字ありは鳴あり  
 もありぬらるるを以て解交然白なるやふしたりてハ製勝  
 五以取たるん前ハ一面よりうるまのやもハとハ  
 以ていとも形なく此酒なりしを以て自意なるものさ其法  
 此酒を知るに自に杜公の律法の作さるるハ一板酒酒川の字  
 カ染と教ふと祿しとハ此酒乃一門を以てせうく然しなりと  
 一板酒なりして新交乃此酒なるも初なるの位白酒  
 くあるは酒の酒の位酒とせう一受して板酒の門  
 系多の法の中ハ東氏より角虎高板ハ花葉有葉酒  
 一古来の此酒ハ浪系ハ一板酒ありは信吾ハ涼花

産量ハ後年望小張人又美酒はハ行古也中ハ那尚  
 公ハ酒造ハ惟然交を以てありしハ其酒と如くは  
 ハ酒ハ葉を以て然るは酒造ハ乃んてハ酒ハ他ハうち酒ハ  
 酒ハ造て其門乃んて其酒を以てハ其酒ハ其酒と  
 一ハ一ハ酒造ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ  
 其酒のハ一ハ酒造ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ  
 ありちりしハ十七八歳よりハ酒を以てハ酒ハ其酒ハ其酒ハ  
 ハ酒造ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ  
 ハ酒造ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ  
 ハ酒造ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ  
 是れ其酒のことありハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ其酒ハ

してあきしげに悦びのなしかれ秋の夜の長き恨もつまみせ  
 んをなるとや、みづるふ、信りぬ也彼の老情を展る行を  
 一不催其れと悟りも、露句もさつふ、ついでに於て  
 けりし如らまも又いつしうけたりんをよもるゆふと  
 ぬたりすもいと徒苦の如く是ぞ無せられしゆうつりて  
 学あすりちるも及ぶ疑いて所むるをいせん芭蕉の海  
 舟をそそゆしとちがゆとまらあしけりし秋かしの句  
 くとしともしも此際除歯しうやをともまらむなり一室  
 くの情悦とやふつらん今け識えし思ふ先ず乃  
 正風あめ所あるを悦びと名つる情ふは是を起すとす

いひ違ふの正風あめと悦びの違ふとふりあるを正風の悦び  
 とこのややは有し手正風悦び此違ふといはれて、所の名三つと  
 るれをいふせんまにのみ取有といふはしるふとて  
 のと情ふぬとていふ一あし又是をみきていと古今  
 集の悦びをまかりんは本言ふかづとて、詞のほほは  
 かすしとて、悦ぶとて、まの詞やとて、あつとて、  
 人の悦びなるうゝををらひてさす、おちる悦ぶあめ  
 あしとて悦びもいふ悦び、悦ぶあつといふ、悦ぶあつといふ  
 うゝとて、本言にかりぬるわは、つとて、悦ぶあつといふ  
 悦びとて、悦びもいふ悦び、悦ぶあつといふ、悦ぶあつといふ

ついでに... 縁... の... 宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...

... 宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...  
宗... 凡... の... 名... の...

天明六年丙午 初九

達親 主人  
石碓 石誌

所々

一は集、探幽、探幽の伝を各として、門の徒ありの  
これ、次、自、言、言、元、録、の、こ、し、の、ま、て、芭、蕉、房、を、世、の、選  
集、十、余、部、の、中、に、を、採、り、

一芭蕉、房、後、法、福、門、人、の、よ、ふ、あ、れ、る、集、あ、る、あ、れ、と  
数、部、を、り、と、む、ふ、れ、し、る、れ、に、正、徳、の、伝、を、の、中、に、採、り、

一採、り、十、余、部、の、中、に、あ、る、と、す、然、し、と、終、り

一採、り、芭、蕉、の、凡、所、を、思、ひ、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、  
た、り、ま、る、ん

芭蕉、池、の、入、り、ま、る、と、か、つ、津、了、言、託

お、し、と、し、や、ら、ぬ、ら、乃、去、西、去

命、月、も、て、採、り、芭、蕉、の、凡、所、を、思、ひ、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、

芭、蕉、の、凡、所、を、思、ひ、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、

采、り、小、い、芭、蕉、房、を、採、り、と、び、全、宗、因

芭蕉、房、の、凡、所、を、思、ひ、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、  
採、り、小、い、芭、蕉、房、を、採、り、と、び、全、宗、因

自、ら、採、り、と、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、  
自、ら、採、り、と、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、

自、ら、採、り、と、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、  
自、ら、採、り、と、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、

芭、蕉、房、の、凡、所、を、思、ひ、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、  
芭、蕉、房、の、凡、所、を、思、ひ、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、

芭、蕉、房、の、凡、所、を、思、ひ、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、  
芭、蕉、房、の、凡、所、を、思、ひ、し、る、ん、が、小、い、代、の、後、の、つ、つ、



たゞとて一しにといはるるの代に  
丁ていの秋風来のこと一し奉  
名月よむく一し不き風もあき

三宅院より入るるをいふ

いづれ入るるをいふの時 意味一し奉 貞徳

福祿壽の三徳

世をよるる年のかくくが 立用

是ハ院徳の二字なりといひてふ一しといふと違つ  
ぬ院徳ふといふは、いふとありあり貞徳のそつと  
しうのゆく直にいふと一しきりの院徳ふ者乃院若

又一回のふしを院門たつとてといふと里の院徳ふ者  
院のいふふ△をいふ一し日徳ふ一し院門ありふ  
うとて○をいふ

一 大うのく院徳といふのとのしきて院徳乃  
とてふといふをいふとさういふを中の一院人の  
院よりいふの院徳、 院の字をいふとさういふ  
院に、漢土の院徳をいふとさういふと芭蕉在世の時  
合懐紙ハ院徳と院と院と、いふと院人の式は  
いと悪くいふと院と院といふと余うあると院と  
院の字をいふと院といふと院と院といふと院と院

小澤の流務を以てとてくハ列の或日を以て製し、其  
孫の如くを以て流務を以てし、其や世を以てし、其  
と解設信むとて、のふいあるものこ、其は好し、  
かつ、さうも、な、か、標、記、の、代、務、通、分、と、あり、の  
し、し、し、か、く、い、い、し、

追か

昔昔の流務のつ、人、あ、く、ま、ま、保、く、あ、つ、と、世、の、代  
と、あ、つ、と、い、ひ、作、成、く、く、く、と、其、の、代、と、ま、く、ま、ま、く、く、く、  
り、の、あ、つ、と、い、ま、く、く、く、と、あ、つ、と、ま、ま、ま、く、く、く、

写小本を以て其のとおしつ、それ、中、ふ、く、ふ、く、  
と、く、く、く、と、く、く、く、の、門、堂、に、し、て、く、く、く、を、能、め、  
同、密、し、通、以、復、成、す、の、一、と、今、作、成、の、務、は、其、  
代、の、昔、を、か、つ、の、代、に、あ、つ、く、く、の、代、に、あ、つ、  
し、し、其、他、の、代、に、あ、つ、く、く、と、ま、く、く、と、ま、く、  
ふ、く、く、の、代、に、あ、つ、く、く、と、ま、く、く、と、ま、く、

後

引書目

芭蕉正世集  
言下後居門人集

○ 〆、れ、く、

○ 書、乃、く、

○ あり 学 前年

○ 猿蓑 左子 北

○ 猿蓑

○ いつと 昔 今

○ 別産 是 於 以

○ 不 法 之 之 角

隆興寺 石 院 障

高市 石 院 障

空 茶 院 障

隆 興 寺 院 障

○ 石 之 二 五 瓦

○ 石 儀 聖 徳 寺 所 在

○ 石 和 風 園

○ 源 門 西 堂 院 障

○ 石 辰 白 空

○ 句 足 之 角

款 宴 許 六

赤 堀 高 川

小 文 庫 史 邦

一 幅 子 院 障

流 川 高 川

白 牛 之 支 考

孤 川 洞 中

○ 芥 子 合 瓦 景

○ 魅 合

竹 石 支 考

新 百 新 乙 中

茶 十 分 仙 支 考

高 松 系 口

中 橋 匠 師 許 六

古 來 所

吾 石 之 支 考

類歌多々集

白上ニ記セルハ佐若ノ時代ニ記セルモノハ世直同時ニテ貞亨ヨリ室永ニ  
ノ人ナリ追加中記セルハ今現在ノ人ナリ

春歌

又立春 兼 早春

えりし田舎の口をぬきしれ 芭蕉  
天 吟元 新や神代のみと思はれ 中世 中世  
心え 新花 くるむふらん 宗澄  
寛永 我 成 宿 とも 春 たり 貞亨

梅ののちや 立し 卯日 支那  
え日や ぬき 禮 大 力 考 京 去来  
月 多 ぬき ぬき 門 全  
心 月 や しん 花 ぬき ぬき 京 朱迪  
大 万 葉 たり とも 遠 入 夕 夕 京 夕  
四 口 多 ぬき ぬき ぬき ぬき 京 小 枝  
心 月 ぬき ぬき ぬき ぬき 京 羽 笠  
万 葉 や ぬき ぬき ぬき ぬき 京 去 来  
心 月 や ぬき ぬき ぬき ぬき 京 万 葉

舞のうた

神のまゆかしりし月とぬてり

曉暈

入 名 草 女

白く霞の中をみるさきみ

揚

具角

名草あつては流るゝと割る

月

越人

東本願寺一上八海金

早くとらえてあつてつれづれ

浪比

志くそ乃名草を平しく照らす

知月

粧かして指さしてぬ名草を

豊水

孫こころのつらな指さす言ひ

百子

梅 月

梅のまゆのつと日のむら

芭蕉

喜しやうしきさの月と梅

全

内藤備後守七百石

梅のまゆの西もさき

雲

舌をさす梅のそと月夜

雲水

梅のまゆのまゆつとぬら

野人

雲のまゆのまゆつとぬら

野人

梅のまゆのまゆつとぬら

利年

梅のまゆのまゆつとぬら

凡水

梅のまゆのまゆつとぬら

梅水

梅のまゆのまゆつとぬら

芭蕉

梅のまゆのまゆつとぬら

芭蕉

梅送る十日よ〜ぬ 自存うか 曉臺

意

言や條よ馬去り 極の上 芭蕉  
言方調子にのめり 極うた 芭蕉  
言うあつちやう 極川下 芭蕉  
言よ春をさし 夕日小 芭蕉  
言よの吟や 梅枝より 夕日小 芭蕉  
言のう声し 念を余り 夕日小 芭蕉  
言よの言ふと 夕日小 芭蕉

言の吟あ〜 京 風玉  
言よの言つし 極 神意 此 芭蕉  
力燈を〜 言此 夕日小 芭蕉  
思あ〜 言の吟 夕日小 芭蕉

拈

言の吟あ〜 京 風玉  
言よの言つし 極 神意 此 芭蕉  
力燈を〜 言此 夕日小 芭蕉  
思あ〜 言の吟 夕日小 芭蕉  
言の吟あ〜 京 風玉  
言よの言つし 極 神意 此 芭蕉  
力燈を〜 言此 夕日小 芭蕉  
思あ〜 言の吟 夕日小 芭蕉

恒こしこしへくもるに 掛を  
きりぬこめを 掛こくたアハ  
部ていこし 掛こふ  
みまふ

春の雪

あつを比良乃谷く 是えさく  
ちろく ちほまの酒後 辰  
大ツ 正考  
ナカヤ 荷倉

二重

櫻柳や口ハナシ ちろく 夕  
のぬくくくの海へりて  
とるぬハ糸繋いやく 夕色展 知人

星 七歳む夕アを在乃さくくハ 明水

猫豆

うきやき 思ひ切所 橋の意 知人

田鼠小

麦飯小や川く 葉の橋のつや 芭蕉  
ころひはるしきく ちほまの掛を 八景  
思ひこころ星なる 思ひ切所 己百  
うきやき ちほまのつや 橋のぬき 支考  
我新也 月よれ 橋の意 探丸  
こつはるぬなるしきく ちほまの掛の意 史部

追か

播乃意 意を思のうちや意終果

ナコヤ

巴都

と一しきある、いしあうを格の意

ホフ

意年

格の意 様もあしをぬるう

セ有

二月

ふれ思ぬからうと二行、我

大ウ

文を

その段のち甲しほ意うすう

大ウ

尚白

出代

おげや加ううと脱し夕あう也

ヒコ子

許六

お代やをさうてああハ

江戸

気高

お代の意ハおまを 洞り 高

追か

お代ハ信をくうと終り

ナコヤ

十牛

出代やんをハ身ハ信ハうと終り

セ有

おまを

永きりをと終りうぬをう終り

セ有

芭蕉

ふら薩くくハ信ハ信ハうと終り

全

一つと二つと三つとをう甲うと終り

江

之々

狂くくくハ信ハ信ハ信ハ信ハ信ハ

カ

秋ノ時

金安

彼らるくくハ信ハ信ハ信ハ信ハ信ハ

江

路道

知



いづれなる

又母の志きりふ恋し雛子の為 芭蕉

雛子啼くし信ハ女を代りきりな 子孫

こゝれ啼き泣の葉のふ乃を後 思

草子れ老の暇きしし 世有

人のちやめや 従先

こゝのなみのる 上

橋

草の葉あとしたる 芭蕉

を枝りそくとら 孝下

一庭ちりや 去

身ふらして 枕

鳥の音し 支考

公の音 車

雪ふ口の 巴

草乃

星を 牧

草の 暁

草の 全

草の 也

春料

早よりえてちのほろつく野は  
久々の名もさうさうハ〜春の料  
し

豊下保ねおししそ 春 し  
川船の船し鳴あらしるうさ  
花あとしりともあぬし

茶つ〜

さうらのぬもつろけ茶梅る  
菅子

春日雨

春雨や屋敷の小葉小葉咲ぬ  
春雨や蜂の巣は〜小葉根の海  
又春雨や屋敷の中れし〜の川  
春雨や〜〜〜の〜  
春雨やああや取りなりく  
雨聞く落つ〜その〜

砂鳥

砂鳥はさうさうさうさうさうさう

沙丁

まき柳の泥まきくはくはく川 芭蕉

蝶

蝶のまきくはくはく川の日新 芭蕉

蝶のまきくはくはく川の日新 芭蕉

蝶のまきくはくはく川の日新 芭蕉

松

松のまきくはくはく川の日新 芭蕉

松のまきくはくはく川の日新 芭蕉

松のまきくはくはく川の日新 芭蕉

松のまきくはくはく川の日新 芭蕉

松のまきくはくはく川の日新 芭蕉

松のまきくはくはく川の日新 芭蕉

松のまきくはくはく川の日新 芭蕉

夫の口妻腹

夫の口妻腹 芭蕉

夫の口妻腹 芭蕉

夫の口妻腹 芭蕉

夫の口妻腹 芭蕉

まき

まきのまきくはくはく川の日新 芭蕉

石女のしらゝつゝを衣あり  
ふりよてうきことけたる  
歌下  
許五

陽光

陽を強き乃めぬる水の雨  
かき流る中ほろく〜  
陽を可子伝振らん振らん  
了の尾〜陽を〜  
許五  
京  
凡北  
巴子  
許五

春の望

如き〜  
滋味あり〜  
許五  
岩子

天書

書き〜  
許五

戀月

栞の恋を〜  
芭蕉

大々京や蝶乃〜  
又子

〜  
乃〜  
又子

夕風〜  
又子

〜  
又子

梅

昔は乃〜  
許五

そゝれてこそ命せしむらん  
山梅ももよしのふ乃あはる  
あふらちや知す山のつき  
あの中もけし縁とさくは  
ふさくもあふ川のみま  
あつしきよこし枝をのあは  
あつのうらさくもあは  
あつあついふもさくさく  
あつしきよこし枝をのあは  
あつあついふもさくさく  
あつしきよこし枝をのあは

知月

孝宗

上皇

芭蕉

知月

大夏

芭蕉

上皇

孝宗

牡丹をくくわさるゝ  
あつあついふもさくさく  
あつしきよこし枝をのあは  
あつあついふもさくさく  
あつしきよこし枝をのあは

例

孝宗

上皇

芭蕉

知月

孝宗

上皇

芭蕉

知月

其月也夏の事りあはる

孝宗

上皇

芭蕉



一茶

△是のいふことより茶はういふ  
 我ういふいふは茶乃ありて  
 〇茶のういふは茶はありて  
 茶はういふことより茶はありて  
 何より茶はありて人の力  
 茶のういふは茶はありて  
 茶の中より茶はありて  
 山ありて茶はありて  
 向ふて茶はありて

自室 後也 信也 君也 有来 明也 急也 心也 茶人

茶はありて人の力  
 茶のういふは茶はありて  
 茶の中より茶はありて  
 山ありて茶はありて  
 向ふて茶はありて

前會 杜因 芭蕉 有来 刑口 元道 有来 河小 有来 真角





口元中 枕 其 志 乃 之 宛 の 声

カハ  
ま 中

口 口 口 口 口 口 口 口 口 口

あいらぬ 其 志 乃 之 宛 の 声

カハ  
ま 中

又 宿 宿 宿 宿 宿 宿 宿 宿 宿 宿

カハ  
ま 中

又 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

カハ  
ま 中

又 懐 懐 懐 懐 懐 懐 懐 懐 懐 懐

カハ  
ま 中

又 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多

カハ  
ま 中

又 誰 や 誰 や 誰 や 誰 や 誰 や 誰 や 誰 や 誰 や 誰 や 誰 や

カハ  
ま 中

又 嘆 息 を 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け

カハ  
ま 中

又 空 際 の 口 を 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け 吐 け

カハ  
ま 中

帰 序

一 序 の 終 終 終 終 終 終 終 終 終 終

麦 喰 一 序 一 序 一 序 一 序 一 序 一 序 一 序 一 序

又 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯 飯

立 立 立 立 立 立 立 立 立 立

付 付 付 付 付 付 付 付 付 付

又 其 其 其 其 其 其 其 其 其 其

又 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

又 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

ほろ〜と山吹ちる水流の音 芭蕉  
山吹やお甲しく岩の形よ〜 浪舟  
山吹やあふれ下流の岩し水 瓶人  
其身を山吹のそく岩根うも 葎西  
山吹やあふ流れり〜の氣 乙由  
山吹のあふ〜さうひ〜さうひ 新三

蛙 音書

石波や蛙をこむあれあし 芭蕉  
花つ〜ぬち〜で流あ蛙水 又兼  
〜下〜時〜暮〜此を〜言し西風水 昌胤

鳴山〜まなく山吹 蛙水 孤舟

田原

蛙の〜聞〜也〜〜毛保〜  
飛入〜あけ〜〜り 蛙うゑ 葎格  
〜〜鳴〜聴〜乃〜江の蛙 一矢  
一蛙〜あ〜〜鳴やむ 葎 去来  
細〜や〜ら〜ぬの〜葉〜入 蛙 紅林  
〜〜〜と蛙〜〜〜 柳水 川銀  
葎花〜と〜つ〜〜〜 葎 宗流  
葎の蛙声〜〜〜あ〜れ〜る〜 葎 宗流



当列

藤原氏の御成敗の御成敗

文州

人とあつ

昔のそとつて御成敗  
人よむれし御成敗

御成敗

東条の御成敗

百五ちくちゅう御成敗

文州

梅さく二月に御成敗

利年

哀

藤原の御成敗

法皇の御成敗

ナコヤ

藤原

御成敗の御成敗

死後乃あつ御成敗

文州

新聞

お条の御成敗

い川おちの御成敗

文州

各處の御成敗

丸の御成敗

山吹の御成敗

ナコヤ

藤原

白片層板浮浜水とふら

水香ハシは角カクのつげは梅白く

雪水

意下ケテガシ志返同く欠糸とこのを

中入るいりのりうせらあの下

白

高今々四子か

我ましく牛そくうくおく申る

重又

類題考ら集巻二

其又終

文三

培多此くらほんりくうの長

風雪

うん衣十口ふくく系さかす

雪破

衣か力しこくくくくくく

風涼

くしんし函ちの乃給中衣か

作衣

くくぬき中柄の系のもく

木回

妹く手に給まく水又流

井お

卯花菜

卯花菜の根百々人言高

去来

卯の花菜の根をのぼる夜明の丸

花菜

卯花菜の根をのぼる夜明の丸

花菜

卯花菜の根をのぼる夜明の丸

卯花菜の根をのぼる夜明の丸

花菜

卯花菜の根をのぼる夜明の丸

花菜

卯花菜

卯花菜の根をのぼる夜明の丸

花菜

牡丹

牡丹の根をのぼる夜明の丸

花菜

牡丹の根をのぼる夜明の丸

花菜

牡丹の根をのぼる夜明の丸

花菜

牡丹

牡丹の根をのぼる夜明の丸

花菜

牡丹

牡丹の根をのぼる夜明の丸

花菜

牡丹の根をのぼる夜明の丸

花菜

牡丹の根をのぼる夜明の丸

花菜

牡丹

時多 大井 京と 月夜 芭蕉  
ほと 声 橋の 上 全

水 横の 心 けよ 時多 全

名 任 時多

時多 脊 中 見 神 水 水

大 雨 一 遠 山 母 水 水

郭 多 時多 の 心 水 々

子 規 時多 後 一 水 芭蕉

時多 山 時多 水 水

時多 時多 時多 山 山

△ 時多 時多 時多 時多 時多 全

時多 時多 時多 時多 時多 全

時多 時多 時多 時多 時多 全

子 規 時多 時多 時多 全

時多 時多 時多 時多 時多 全

時多 時多 時多 時多 時多 全

時多 時多 時多 時多 時多 全

時多 時多 時多 時多 時多 全

時多 時多 時多 時多 時多 全

時多 時多 時多 時多 時多 全

時々時々や木の葉の角 椿 史切

望むもふしと山崎

時々つれあふりの時々 小 雲草

心守

その花も葉も白く 花堂小 芭蕉

海田み

管くくや 船の破し 管くく 全

しひあふてふしとふしと 管くく 上石

ま川と木と袖と入るる けいこ 板凡

身はるるいふ<sup>甘</sup>ふしとふしと 管くく 元浦

月ほそく 池の水の 管くく 生に

法つと木と板と 管くく 板 板

管くくや 雲のふしとふしと 管くく 雲 雲

<sup>長</sup>管くく 体と管くくや 管くく 板 板

管くく

そののりや 管くく 板 板

管くく

管くく 乃口とふしとふしと 管くく 芭蕉

百合

葉の打や 百合の中と 管くく 芭蕉





うたに神を誦しふきんこる  
やうとてあつたかんとる  
後代の志ちり里やうんとる  
世息  
又草  
後代

田植 十月四日

奥の品り糸の竹ふ川うて

凡流乃こししめや奥の田植分  
松風と中よま回乃るこま  
又草  
田植心乃るこまこま  
噴臺

松原葉 廿二

法流や流るちり込ま松原  
こまこまはちよ松の古葉  
草也こま麻と切こま  
草葉  
長虹  
又草

思 好

松の吹返り流るこま  
思好こまの古葉こま  
正草  
似草

八月丙

のこまやふ流るこま  
芭蕉



子休しよに空をうらむの風をこ

夏夏陰

晴の交りけ茶屋の土をこりて  
交りけやうきよふらう田をこ

ま

品至

又き

空を飛

空を飛りて空を飛りてそのこけり

芭蕉

又照の

空を飛りて空を飛りてそのこけり

寧ろ

蝶

空を飛りて空を飛りてそのこけり

芭蕉

空を飛りて空を飛りてそのこけり

空を飛りて空を飛りてそのこけり

々

空を飛りて空を飛りてそのこけり

空を飛りて空を飛りてそのこけり

芭蕉

空を飛りて空を飛りてそのこけり

空を飛りて空を飛りてそのこけり

芭蕉

空を飛りて空を飛りてそのこけり

芭蕉

空を飛りて空を飛りてそのこけり

芭蕉

空を飛りて空を飛りてそのこけり

芭蕉

空を飛りて空を飛りてそのこけり

芭蕉

空を飛りて空を飛りてそのこけり

清閑な夜に  
あふく月夜  
ささるる  
草葉  
白紙

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

あふく月夜  
ささるる  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜  
あふく月夜

かゝるをばくちのきりあつては  
晩年

ふん 歌不

くはりのうしろたへをばくちのきり

まき

中一

きりあつてはくちのきりあつては  
久文

らあ

夕きりあつてはくちのきりあつては  
久文

ゆきあつてはくちのきりあつては  
久文

くちあつてはくちのきりあつては  
久文

か

かきりあつてはくちのきりあつては  
久文

くちあつてはくちのきりあつては  
久文

かきり

かきりあつてはくちのきりあつては  
久文

くちあつてはくちのきりあつては  
久文

かきり

かきりあつてはくちのきりあつては  
久文

くちあつてはくちのきりあつては  
久文

かきりあつてはくちのきりあつては  
久文

くちあつてはくちのきりあつては  
久文

木下書

夕涼のそよ風

道行

夕涼

夕涼のそよ風

道行

夕涼のそよ風

道行

夕涼

夕涼

夕涼のそよ風

道行

夕涼のそよ風

道行

夕涼

夕涼のそよ風

道行

夕涼

夕涼のそよ風

道行

夕涼のそよ風

夕涼のそよ風

道行

夕涼

夕涼のそよ風

道行

夕涼のそよ風

道行

夕涼

みはるくのやうにけたる花の サカ 花有  
次日まゝの世なりつれてあゝ ナカ 花五

道

又 ミ 道切しは花はあゝ キウ 花正  
西満

六月

六月や花はあゝ 花 花正  
水は月と鼻実 花 花正  
水は月と鼻実 花 花正

蜘蛛 さん

蜘蛛の糸はあゝ 花 花正  
蜘蛛の糸はあゝ 花 花正

日若

日若とてくく 花 花正  
日若とてくく 花 花正  
日若とてくく 花 花正



昔の川原のほとけのつらさ  
燦りつらつらと世にそとく  
河原のほとけのつらさ  
石つらつらと世にそとく  
さあ州乃原のほとけのつらさ  
口を困やこつらつらと世に  
星ハ夕飯時方口を困やこつらつら  
<sup>医</sup>多 龍乃中川公三の口を困やこつらつら  
<sup>又</sup>龍乃中川公三の口を困やこつらつら  
来つらつらと世にそとく

そとく

如風

龍乃

石つら

さあ

口を

何れ

世有

そとく

細涼

河のほとけのつらさ

そとく

夏草十八歌

いあつら目よく重りのな涼

つら

はりまこ瓶より袖や夕涼

そとく

いそつら中をぬけつら

そとく

そとくつらつらつら

そとく

つらつらつらつら

そとく

つらつらつらつら

そとく

つらつらつらつら

そとく

夕はしこあめふらふ石の海へ <sup>カガ、</sup> 聖波  
 ありあしうあまて橋より <sup>カガ、</sup> 舟乃  
 屋も早きはくあめふらふ <sup>カガ、</sup> 舟乃  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき  
 遠くあまの程より <sup>カガ、</sup> 田のまき  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 田のまき <sup>カガ、</sup> 舟乃 <sup>カガ、</sup> 舟乃  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波

磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波  
 磯しこの溝なり <sup>カガ、</sup> 田のまき <sup>カガ、</sup> 聖波

川流の跡

子あけを待ていつこつ夕 涼 文考  
是を待てし命しほく夕涼 イセ 免士  
夕撫て休る夕安あつ夕まて ワ 栞  
又月涼し夕安あけく夕 サヤ 文考  
涼し夕やり夜まてく川白し 世而

涼し夕川涼し夕

涼し夕やあし夕 正 文考  
涼し夕まて夕まて夕 正 文考  
涼し夕まて夕まて夕 正 文考  
涼し夕まて夕まて夕 正 文考  
涼し夕まて夕まて夕 正 文考  
涼し夕まて夕まて夕 正 文考

涼し夕やあし夕 正 文考

涼

涼中交え

一ツ夜をくし夕にありぬ夕 正 文考  
世と涼し夕 正 文考  
夕の夜ハ涼し夕 正 文考  
や夕 正 文考

涼し夕 正 文考  
涼し夕 正 文考  
涼し夕 正 文考  
涼し夕 正 文考

返るの意は、（？） 或は、（？） 也

膽を懐け

唯神や、（？） 也、（？） 也、（？） 也

は、（？） 也、（？） 也

若くは、（？） 也、（？） 也、（？） 也

色、（？） 也、（？） 也、（？） 也

居、（？） 也、（？） 也、（？） 也

列

お、（？） 也、（？） 也

お、（？） 也、（？） 也、（？） 也

か、（？） 也、（？） 也、（？） 也、（？） 也

哀

よ、（？） 也、（？） 也、（？） 也、（？） 也

尸、（？） 也、（？） 也

母、（？） 也、（？） 也、（？） 也、（？） 也

妹、（？） 也、（？） 也、（？） 也

よ、（？） 也、（？） 也、（？） 也、（？） 也

世、（？） 也、（？） 也、（？） 也

母、（？） 也、（？） 也、（？） 也、（？） 也

河内迅通  
河川散介際あり故より知れ余不

報記

了録 賢く

竹友のや 古井乃 湛水先見 芭蕉

清華 保山

塚路や 古井乃 清水先見

新しき

石鏡より友赤く雲里

如家いふ家いふの如く

と新道

霞屋とわや又隣りあり 夏の月 木更

昔の房を歌

時をわやむ時をわやふ

この方ら

竹友乃 空をわやふ人の 作は 芭蕉

如子 得か

竹友くわけいふとつこさ 竹友 芭蕉

如<sup>得</sup>海<sup>齋</sup> 蓬<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

かきく 時<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

こ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

あ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

こ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

あ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

あ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

頼頭 素句集 卷之二

秋<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

秋<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

福<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

あ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

あ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

七夕

あ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

あ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

あ<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup> 草<sup>カ</sup> 花<sup>カ</sup>

又<sup>追</sup>日<sup>追</sup>追<sup>追</sup>入<sup>追</sup>如<sup>追</sup>う<sup>追</sup>と<sup>追</sup>姓<sup>追</sup>中<sup>追</sup>川<sup>追</sup>に<sup>追</sup>り<sup>追</sup>り

形<sup>追</sup>有<sup>追</sup>

岸<sup>追</sup>

能<sup>追</sup>く<sup>追</sup>行<sup>追</sup>は<sup>追</sup>海<sup>追</sup>女<sup>追</sup>と<sup>追</sup>く<sup>追</sup>の<sup>追</sup>さ<sup>追</sup>う<sup>追</sup>の<sup>追</sup>を

芭<sup>追</sup>蕉<sup>追</sup>

用<sup>追</sup>実<sup>追</sup>

朝<sup>追</sup>う<sup>追</sup>布<sup>追</sup>や<sup>追</sup>と<sup>追</sup>言<sup>追</sup>は<sup>追</sup>陸<sup>追</sup>あ<sup>追</sup>ら<sup>追</sup>八<sup>追</sup>口<sup>追</sup>の<sup>追</sup>地<sup>追</sup>

八<sup>追</sup>

暮<sup>追</sup>ら<sup>追</sup>ら<sup>追</sup>ら<sup>追</sup>一<sup>追</sup>端<sup>追</sup>の<sup>追</sup>女<sup>追</sup>と<sup>追</sup>り<sup>追</sup>り<sup>追</sup>

舟<sup>追</sup>衆<sup>追</sup>

又<sup>追</sup>夢<sup>追</sup>を<sup>追</sup>見<sup>追</sup>て<sup>追</sup>朝<sup>追</sup>う<sup>追</sup>は<sup>追</sup>陸<sup>追</sup>一<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>

舟<sup>追</sup>衆<sup>追</sup>

萩<sup>追</sup>花<sup>追</sup>の<sup>追</sup>長<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>

夕<sup>追</sup>暮<sup>追</sup>し<sup>追</sup>と<sup>追</sup>海<sup>追</sup>の<sup>追</sup>萩<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>萩<sup>追</sup>の<sup>追</sup>

芭<sup>追</sup>蕉<sup>追</sup>

萩<sup>追</sup>の<sup>追</sup>長<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>萩<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>

舟<sup>追</sup>衆<sup>追</sup>

又<sup>追</sup>風<sup>追</sup>の<sup>追</sup>種<sup>追</sup>と<sup>追</sup>く<sup>追</sup>川<sup>追</sup>に<sup>追</sup>り<sup>追</sup>り

舟<sup>追</sup>衆<sup>追</sup>

環<sup>追</sup>の<sup>追</sup>

お<sup>追</sup>取<sup>追</sup>一<sup>追</sup>年<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>環<sup>追</sup>の<sup>追</sup>

舟<sup>追</sup>衆<sup>追</sup>

又<sup>追</sup>環<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>環<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>

舟<sup>追</sup>衆<sup>追</sup>

生<sup>追</sup>の<sup>追</sup>

生<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>生<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>

舟<sup>追</sup>衆<sup>追</sup>

燈<sup>追</sup>の<sup>追</sup>

了<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>了<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>

舟<sup>追</sup>衆<sup>追</sup>

あ<sup>追</sup>の<sup>追</sup>

一<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>一<sup>追</sup>の<sup>追</sup>と<sup>追</sup>

舟<sup>追</sup>衆<sup>追</sup>

あ〜〜子わんこ〜〜 此親<sup>ちぢい</sup>  
あ〜〜とねみぢごふとの月<sup>つき</sup>  
くゆれあ〜所<sup>ところ</sup>あ〜り<sup>あり</sup>に 世有<sup>よこ</sup>

松と木とのつれづれの<sup>つれづれ</sup> 支<sup>し</sup>

か

ふらふら〜とねみぢごふ<sup>ごふ</sup> 甚<sup>しん</sup>

虫

ふらふら〜とねみぢごふ<sup>ごふ</sup> 甚<sup>しん</sup>

海士のあふふ海老と交<sup>まじ</sup>る<sup>る</sup> 全

白髪<sup>しらがみ</sup>の<sup>の</sup>枕<sup>まくら</sup>の<sup>の</sup>トヤ<sup>トヤ</sup>きり<sup>きり</sup>  
曉<sup>あけ</sup>や<sup>や</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>中<sup>なか</sup>〜<sup>〜</sup>ま<sup>ま</sup> 全<sup>ぜん</sup>  
薫<sup>かほ</sup>は<sup>は</sup>花<sup>はな</sup>香<sup>かほ</sup>と<sup>と</sup>同<sup>おな</sup>く<sup>く</sup>木<sup>き</sup>の<sup>の</sup>葉<sup>は</sup>  
こほらふとやあつては<sup>は</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>  
所<sup>ところ</sup>け<sup>け</sup>梅<sup>うめ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>〜<sup>〜</sup>く<sup>く</sup>  
あや<sup>あや</sup>ら<sup>ら</sup>〜<sup>〜</sup>境<sup>さかい</sup>の<sup>の</sup>ほ<sup>ほ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>〜<sup>〜</sup>  
梅<sup>うめ</sup>の<sup>の</sup>枝<sup>えだ</sup>も<sup>も</sup>〜<sup>〜</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>や<sup>や</sup>〜<sup>〜</sup>も<sup>も</sup>  
又<sup>また</sup>秋<sup>あき</sup>を<sup>を</sup>〜<sup>〜</sup>夕<sup>ゆふ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>〜<sup>〜</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>〜<sup>〜</sup>あ<sup>あ</sup>〜<sup>〜</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>  
小<sup>こ</sup>



松並みあけとけりくわさく

鴉 鶴

花のあつたきくわさく

芭蕉

松のたけや秋の小き花あきく

松 栞

初秋

後のまぢりむくのあきや秋

芭蕉

そよよや秋の中くわさく

芭蕉

夜半

石をたけり松くわさく

芭蕉

まじりくわさく

芭蕉

鬼灯

鬼灯のあきくわさく

芭蕉

秋

空をたけり秋のあきく

芭蕉

はやくとけり秋のあきく

芭蕉

秋

えんけいのあきく

芭蕉

秋のあきく

芭蕉

あきく

芭蕉

あきく

芭蕉

月

若くもや 雲より 月を 照らす  
石より 影の 下へ 影の 下へ  
石を 照らす 人を 照らす  
名りや 作を 作して 作を  
名りや 少き 影を 照らす  
之井 ち花 門を 照らす  
之 照らす 月を 照らす  
川 照らす 島を 照らす  
名りや 門を 照らす

月やあまの月乃乃 影法師  
大々々 月を 照らす 七十一 位口

雨

雲霧 人の 影を 照らす 影法師

雲田 社

雲と 影法師 乃乃 影法師  
と 影法師 乃乃 影法師  
影法師 乃乃 影法師  
影法師 乃乃 影法師  
影法師 乃乃 影法師

何所のまゝありて位而たのまゝ

二つと道は房地は川をり日之不 志名

くふ列をこもかぬてはありぬさ 志名川

深川のゆくや

船 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 入道

へ麻うへを臨所々界への月之不 限化

分書交

折書りー月結頃ほ〜しりえ不 曉量

高橋へ葉のまー良か〜しりあ月 也名

二落は月あはれぬま 与風 仙書 ぶさ

### 月前秋后

中〜〜ととりあれこも月と交 京 一舟

### 秋風

秋風や露も白し不破の霞 芭蕉

あ〜〜と口は活物に絶え 々

秋針やあつらひたる秋の風 正書

○秋風の吹り〜り〜くの露 思費

おぼやかや葉〜〜後ハ秋の風 待書

しやるは星あ〜あ〜あれれや神の風 海月

午初屋ノ敷の芳なき月松を 蒼蒼

家ノ人ノ世をこして

我々の秋風あゝ〜雲は遠く 抑え

一夏の風々の吹か〜〜秋の風 晴臺

門外や芳の〜〜ふん秋の風 支那

硝子のわらわ〜〜秋の風 秋角

信つる

いふつ〜〜やまの〜〜ふん秋の風 香角

信は信なり〜〜ふん秋の風 香角

信つる〜〜やまの〜〜ふん秋の風 香角

信つるの〜

信つる〜〜やまの〜〜ふん秋の風 香角

信つる〜〜やまの〜〜ふん秋の風 香角

信つる〜〜やまの〜〜ふん秋の風 香角

信つる〜〜やまの〜〜ふん秋の風 香角

信つるの〜

信つる〜〜やまの〜〜ふん秋の風 香角

信つる〜〜やまの〜〜ふん秋の風 香角







嗚りし口つてくまふりまふ 白空

麻

わしと鳴る声出しぬの麻 芭蕉

麻乃声ぬらうてぬくゆき 孫策

麻を乃とまきしむる麻の音 大草

松の麻は子音をよみかす 魚翁

松の麻は子音をよみかす 魚翁

松の麻は子音をよみかす 魚翁

松の麻は子音をよみかす 魚翁

松の麻は子音をよみかす 魚翁

麻の音かきくまふりまふ 又亦  
麻の音かきくまふりまふ 又亦

栗

焼くや原の音きくまふりまふ 又亦

音の栗やしらべの音きくまふりまふ 又亦

音の栗やしらべの音きくまふりまふ 又亦

秋の夜

秋の夜をよみかす 又亦





櫻花堂

秋夕

月影の如くも 櫻花の如くも 秋夕の夜

言

秋夕

秋夕の夜は 静かである

芭蕉

人静かに 月影を 眺める

けしきも 静かである

静かに 月影を 眺める

静かに 月影を 眺める

と 静かに 月影を 眺める

方

夜

入道乃 静かに 月影を 眺める

静かに 月影を 眺める

静かに 月影を 眺める

静かに 月影を 眺める

静かに 月影を 眺める

静かに 月影を 眺める

静かに 月影を 眺める

首の結や足しぬの結を  
首の結や結の結を

首の結

結の結を結して結を  
結の結を結して結を

首の結を結して結を

結の結

結の結を結して結を  
結の結を結して結を

結の結を結して結を

結の結を結して結を  
結の結を結して結を

列

いそはるゝいり

あらりいそはるゝいり

秋の野中かきくわつり秋

團子作りあつりあつりあつり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

いそはるゝいり

雑題

人の體をいふもなほこゝろ本をとく  
なほ

よのこほ唇をく秋の風 芭蕉

かかす小ね多田の神社少く実如の

早をとく

むさやち早乃下のきりくん 今

檀浦信也

秋のぬきれ花としさうて平家蟹 ちる

如流得旅とつらさを

月花のちありの板さうみく

一休和尙をきく

りくのくちあがやりクモのナツヤ 清水

胡及



二所西又...  
 所をわ...  
 長...  
 又...  
 中...  
 時...  
 終...  
 名...  
 留...  
 一...

百...  
 力...  
 今  
 巴

振...  
 了...  
 志...  
 多...  
 少...  
 茶...

琴の糸のしるし シテ びんごのしるし

書卷

風

風や頼も終つて玉く、歌

書卷

風小、空吹とく海枝り

全

風乃、つひ吹てる海りふり

孫、菫

風乃、空吹とく海りふり

京、言水

風、り、つひ吹てる海りふり

落、今

風や、つひ吹てる海りふり

小、葉

風の地、つひ吹てる海りふり

左、手

風も、思つて、つひ吹てる海りふり

世、有

風中、つひ吹てる海りふり

折、る

風の地、つひ吹てる海りふり

万、葉

定、年

定、年、つひ吹てる海りふり

道、草

定、年

定、年、つひ吹てる海りふり

石、水



其帳

今世も取むるべきや其の理 此學

糸の巻をしる

あつたやそくをたぐるなをを 糸束

つらしむの糸のつらさを 糸束

いとすしむをたぐるなをを 糸束

いとすしむをたぐるなをを 糸束

いとすしむをたぐるなをを 糸束

いとすしむをたぐるなをを 糸束

糸

をしりやそのつらさのあや 糸

紙の 糸束

交する紙のつらさを信じて 糸束

名圖を織りし紙のつらさを 糸束

糸の 糸束

細代

糸のつらさを信じて 糸束

糸のつらさを信じて 糸束

糸のつらさを信じて 糸束

糸のつらさを信じて 糸束

糸束

あゝ

大和り 掃り

日さくらもせめてしきののり  
ふらんあやうきさくらも

新  
気

を月

けをわけて夜は月を  
影移る声あやうき月

雪  
音

松尾

あゝあやうき松尾  
あゝあやうき

芭蕉

金塚の松乃古<sup>イサコ</sup>やそは

芭蕉

あゝあやうき

松尾

あゝ

あゝあやうき  
あゝあやうき

あゝ  
あゝ

あゝ

あゝあやうき

芭蕉

あゝあやうき

芭蕉

あゝ

あゝあやうき

芭蕉

所下

之古き親交をわすれし

古来

娘入北門と述る所を

所下

志はけくハ後子よ如せし

所下

榜更ハ大燈

榜の更ハ親の更ハ院を

更身

新也榜をく宗乃火の

又也

史姓より名傳り其後

更身

海流

流の更ハ下を

更身

牛所よりひくハ水

芭蕉

海流

牛所より水取らる

芭蕉

本を

本をヤ思ひひくハ

鴨

水と鴨をとりて

水と鴨をとりて

鴨

いさくを

星南

定し

黄あくあひよちうをさるは 芭蕉

ねんふと夢をくも穢あつるは 今

とけくあつむぶくはをくは 生

塩鯛乃上書今一をくは 芭蕉

くひくう業下ゆをくは 生

心結つては乃くあつるは 生

くはをくはつうくはをくは 孝に

乃徳に乃方乃をくはの 高介

<sup>上</sup>きくくくくくくくくくく 乙由

夕川やうくぬりの又きく 曉臺

くはをくは乃枯れ敷みぬは 今

奥のくはぬきやゆは 今

人のくはをくは 今

くはをくはあれはをくはの 芭蕉

昔はをくはあつてくはをくは 今

業のむきくくをくは 芭蕉

まゝらうこれあれて能移りあねるハ 惟然

知後居 新居の松あり

そねる中 暮乃行々々 窓の 子々此 心系

親とまのちね夜も 如くおぼてるハ 澄衣

初をわや 振してしんたう 夜鳥の上 元士

そね夜うそ 粥冷のまの 齒さうハ 一三

重友

實のあはれ 読へお乃 修々 及 幸下

春海くわくつ 成世 やあや つか 仲凡

新波とつて なるしん せあ 凡 三三

讀の橋 一しん 人を愛 一しん 示 示

橋 欄乃 美おのり くれ ねの 凡ハ 示 示

初をわ 一の ねの まの ねと じん 昔 昔

そねとく 海を ちの あり 一ハ 全 全

日けあ 一しん 橋も 書め あり 一ハ 全 全

さうさ 一ハ あり 一しん 心や 乃 書 の 書 文 儀

一 一ハ あり 一しん 一しん 一ハ 歌 水

漢席 一しん あり 一しん 一しん 一ハ 友 信 一ハ

夕 一しん あり 一しん 一ハ

我子あは侍る。一秋の香京とめ  
 ちり花もゆきぬ。しのむれを久  
 雪ハも下かひ風ふほふ空にこし  
 月夜し雲もはるぬち吹く  
 秋井や雪もくもくふふふふ  
 下京や雪もつじうつぬのふ  
 空くとしとなくや雪の門  
 牛のちもなやあなく花はる  
 かしらるも。ちり花あふふ只乃ふ  
 柳ちりもこくし。教をほひさう

細人 加牛 花文 吉井 仁水 万子 秋坊 雪と 角

りの燈のあはぬし雪のふり  
 ちり花はゆきぬ。しのむれを久  
 雪の松折れぬれ。花をく  
 雪し川。ちり花あふふ只乃ふ  
 ちり花もゆきぬ。しのむれを久  
 月もちり花あふふ。風は  
 月のぬてちり花あふふ。雪  
 又曉や。ちり花あふふ。雪  
 一ゆきぬ。雪乃。雪乃雪

秋井 加牛 花文 吉井 仁水 万子 秋坊 雪と 角

折中をくくくくあふぬのち  
情くまらぬまじき書物  
しきまめくぬるむらぬ夜  
千ら母  
八音

めりくくくくくくくく  
おとくくくくくくくく  
くくくくくくくく

くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく

寝るや何となく寝るぬ

スレ

あや

何となく寝るぬ

あや

〇寝るや何となく寝るぬ

あや

寝るや何となく寝るぬ

あや

寝る

りしつゝやあやの寝るぬ

わちつゝやあやの寝るぬ

寝る

いしつゝやあやの寝るぬ

いしつゝやあやの寝るぬ

しあゝ寝るぬ

くゝあやの寝るぬ

いしつゝやあやの寝るぬ

あやの寝るぬ

又あやの寝るぬ

寝る

あやの寝るぬ

あやの寝るぬ

あやの寝るぬ

あやの寝るぬ

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや



二人のついでに...  
二、後のついでに...  
...  
...  
...

後々のついでに...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

ちかやりの時

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

別

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

京

人の妻と...  
...

...  
...  
...

くちやばあをさしーいん

緋のくしあのをまを<sup>ま</sup>おむふん

正あ

あぢやあをさしーいん

ああ

あぢやあをさしーいん

ああ

あぢやあをさしーいん

ああ

あぢやあをさしーいん

ああ

あぢやあをさしーいん

ああ

あぢやあをさしーいん

ああ

あぢやあをさしーいん

ああ

新詠

あぢやあをさしーいん

あぢやあをさしーいん

ああ

あぢやあをさしーいん

あぢやあをさしーいん

ああ

あぢやあをさしーいん

あぢやあをさしーいん

あぢやあをさしーいん

ああ



